

アジアマスターズ陸上 M50・4×100mRで世界新。大活躍の日本勢

卯年から辰年へ。卯年の最後を飾るかのように、11月8日からフィリピンのクラークで行われた第22回アジアマスターズ陸上競技選手権大会で日本選手団が大活躍。なかでも男子のM50・4×100mRで44秒42の世界新をマークした。金メダルはリレーを含め男女59個を数えた。

M50・4×100mRで世界新 日本のカルテットが快挙

M50クラスのカルテットが快挙をやったのけた。4×100mRで44秒42の快走だ。公認世界記録は2009年にアメリカチームが出した44秒47。14年ぶりに日本チームが更新した。

1走は寺下健治さん（京都）。M50・100m11秒51で1位に輝いた実力をリレーでも発揮。スタートから飛ばして2走以下をリード。

2走の朝原宣治さん（京都）—3走の譜久里武さん（沖縄）—アンカーの赤堀弘晃さん（兵庫）とバトンパス。バトンを受け走り出すたびに2位以下との差が広がるばかり。ただ、譜久里さんが100m予選を11秒61で1位通過したが、決勝は脚の故障で8位に終わり、リレーにも少し影響したようだ。

断トツで快勝したが、4人は決して満足でなかったのだ。それは「2度とどこにも出せないタイムで走ろう。43秒台でいこう」と朝原さんが言ったように、みんながその気になっていた。特に朝原さんは「リレーに懸ける」と

M50・4×100mRで世界記録を更新した右から譜久里さん、寺下さん、朝原さん、赤堀さん（写真提供/深沢潤二さん）



100mを棄権している。

もともとオーダーも当初は譜久里さん、寺下さん、赤堀さん、朝原さんのはずだったのが、いざレースのときに変わっていた、という。理由は不明。

アンカーを務めた赤堀さんはM50・200m23秒56（+0.3）で優勝。「来年、スウェーデンである世界マスターズで100m、200mとも連覇を目指したい」と意欲を燃やしている。

リレーでは4×100mRで男子3、女子1、4×400mRで男子3の各チームが1位になった。

M35・大石唯さん(山形) リレー含め4冠達成

大会参加の時は38歳、12月で39歳になる大石唯さん（山形）が4度表彰台へ。M35・100m10秒81（±0.0）、200m21秒98（±0.0）はじめ、4×100mRで1走、4×400mRでは2走を務め、42秒97、3分30秒26で四冠を達成した。

「大会の直前に脚のふくらはぎを痛め、万全でなかったのですが勝つことができて良かった。暑かったですが、かえて体が動いてくれて。欲を言えばもう少しタイムを縮めたかった」。一昨年の21年、37歳でマスターズ入りした大石さん。来年の全日本マスターズ京都大会には「ぜひ参加を」と張り切っている。

最高齢・田中博男さん(青森)と M70・佐々木文夫さん(岩手)

やはり田中博男さん（青森）は強かった。日本選手団の中で最高齢92歳

の田中さんは21年にM90・100mで16秒69の世界最速をマークし、絶対的な“速さ”を誇る。

今回のアジアマスターズでは19秒23で「全くダメですね」。大会前の練習が「納得するまで、できていなかった」。

200mは36秒65でベストの36秒02（21年）には及ばなかったが「40秒を切ることを目標にしているので、まずは納得のタイムと思っています」と話す。その後、「やはり年々体力は衰えますね。100mも200mもベストで走ったのは90歳のときですから」。

もう1種目、M90・400mを走り1分00秒12で、こちらも1位。「この種目は練習なしで挑み、記録は全く意識していません。完走できてよかった。100秒以内で走れたので……」と、まずは満足した様子。

いずれにしても三冠達成だ。おめでとうございます。

◇

田中さんの付き人ではないが、田中さんを主軸にしたM90・4×100mRで1分33秒52、4×400mRに9分23秒29の世界記録を持つ青森リレーチームの応援人が岩手の佐々木文夫さんだ。住む所が違うとはいえ、リレーチームが走る時は青森まで駆けつける。

この佐々木さんが連日、気温31度の暑さのなか、M70・100m14秒14、200m30秒41、400m1分07秒15と3種目を制する活躍をした。田中さんと同じ三冠である。さらにM55の4×400mRに加わり、3走を務め4分



短距離三冠に輝いた玉田中さん(写真提供:佐々木文夫)

界マスターズ室内の男女4×200mRで玉田ゆみ子さん(宮崎)からバトンを受け、3走として1位になり、全日本マスターズの200mでも好成績を残して「卯年の今年はいい年でした。新しい年の辰年も続くといいんですけど」とっこり。

W70跳躍三冠の玉田ゆみ子さん(宮崎)

W70の玉田さんは跳躍4種目に挑み、3種目で金メダルをゲット、1種目は銀メダルだった。

「日本の秋の気候に慣れていたので、現地の暑さにはまいりました。少し疲れ気味でした」と言うが、第1種目の走高跳は1m00で2位となった後、2～4種目の3つの跳躍種目でタイトルをすべて取ったのだ。これが70歳のパワーか。

棒高跳は1m30、走幅跳が2m96(-0.1)、三段跳は6m58(-0.5)がその内容。棒高跳については「目標は1m50でしたが、助走に足が合わなかったのと、ポールが自分のでなく、貸与されたものだったので……」と、ちょっと残念そう。

走幅跳は「後半になって跳べるようになって。近くにいた役員さんが応援してくれて。でも、3mを目指していたんですが。三段跳も「6m90台」を狙っていたのだが、到達しなかった。だが、玉田さんは「熱風」のなか、ベストを尽くせました。また体づくりをして次に備えます」と意欲を見せた。

W80・投てき三冠 嘉成俱子さん(兵庫)

「十分楽しませてもらいました」と、にこやかに話す嘉成俱子さん(兵庫)。国内の大会だけでなく、海外の大会に

もどしどし参加する。「もう記録は2の次。観光旅行のつもりで出掛けて、楽しめればいいんです」と言うが、強さは相変わらずだ。

今大会も砲丸投で8m10、円盤投が19m55、ハンマー投は17m73と3種目でトップを占め、やり投は11m70で2位だった。

「練習したくても場所がなくて、練習といえば歩くだけ。だから記録はまあまあ。砲丸は久しぶりに8mを越えたし。これからも大会にはどんどん参加しますよ」

第22回アジアマスターズ 日本選手メダリスト一覧

選手名	クラス	種目	記録	順位
大石 唯(山形)	M35	100m	10秒81(±0.0)	優勝
	M35	200m	21秒98(±0.0)	優勝
鈴木 大地(千葉)	M35	400mH	57秒77	優勝
後藤 厚人(大阪)	M35	走幅跳	6m50(-0.3)	優勝
島崎 靖治(神奈川)	M40	400m	53秒86	優勝
秋本 真吾(東京)	M40	110mH	15秒44※	優勝
望月 善雄(埼玉)	M45	走幅跳	6m09(-0.3)	優勝
山田 真一(大阪)	M45	110mH	18秒36※	優勝
	M45	棒高跳	3m60	優勝
大竹 順平(大阪)	M45	800m	2分06秒81	優勝
水口 政人(神奈川)	M45	100m	11秒36※	優勝
尾上 泰士(愛媛)	M50	400mH	59秒81	優勝
赤堀 弘晃(兵庫)	M50	200m	23秒56(+0.3)	優勝
寺下 健治(京都)	M50	100m	11秒51※	優勝
野田 秀樹(愛知)	M50	100mH	14秒49※	優勝
久保田謙吾(福島)	M55	円盤投	35m76	優勝
掛谷 亨(滋賀)	M55	砲丸投	11m22	優勝
大内 直浩(神奈川)	M55	100m	12秒66※	優勝
	M55	200m	26秒18(±0.0)	優勝
村井 浩司(京都)	M60	棒高跳	2m80	優勝
佐藤 隆一(東京)	M65	300mH	53秒80	優勝
小林 正人(静岡)	M65	走幅跳	4m68(-0.3)	優勝
	M70	100m	14秒14※	優勝
	M70	200m	30秒41※	優勝
佐々木文夫(岩手)	M70	400m	67秒15	優勝
	M75	800m	3分28秒63	優勝
	M75	砲丸投	9m99	優勝
外山 修(愛知)	M75	やり投	29m63	優勝
西山 正文(京都)	M75	棒高跳	2m20	優勝
久村 隆一(北海道)	M75	5000mW	35分49秒13	優勝
山田 博嗣(愛知)	M80	ハンマー投	33m42	優勝
	M80	800m	3分42秒61	優勝
	M80	1500m	7分41秒77	優勝
藤崎 利廣(宮崎)	M90	100m	19秒23※	優勝
	M90	200m	36秒65※	優勝
	M90	400m	1分00秒12	優勝
田中 博男(青森)	W35	100m	12秒89(±0.0)	優勝
	W35	200m	26秒76(±0.0)	優勝
伴 佳恵(神奈川)	W35	円盤投	39m29	優勝
	W35	200m	26秒76(±0.0)	優勝
東海茉莉花(富山)	W35	砲丸投	39m29	優勝
高畑 志野(長野)	W45	800m	12秒02※	優勝
中尾 晴美(神奈川)	W55	80mH	13秒90※	優勝
高橋 葉子(神奈川)	W60	200m	31秒27※	優勝
	W70	棒高跳	1m30	優勝
玉田ゆみ子(宮崎)	W70	走幅跳	2m96(-0.1)	優勝
	W70	三段跳	6m58(-0.5)	優勝
長崎ひな子(広島)	W70	100m	16秒76※	優勝
	W70	200m	35秒35(±0.0)	優勝
嘉成 俱子(兵庫)	W70	400m	1分23秒09	優勝
	W80	砲丸投	8m10	優勝
	W80	円盤投	19m55	優勝
	W80	ハンマー投	17m73	優勝

※は記録に風速未記載

20秒10で惜しくも2位。もし1位だったら四冠だった。

佐々木さんは語学が堪能で世界マスターズなどのときは通訳としても活躍している。なお、本誌6月号のマスターズのページで紹介した通り、3月にポーランドでの世界マスターズ室内陸上の男女4×200mRでアンカーを務めた佐々木さんが2分20秒09でフィニッシュし、世界室内を制した。

W70スプリント三冠の長崎ひな子さん(広島)

W70クラスのスプリンター長崎ひな子さん(広島)が魅せた。100mは16秒76でトップ。200mが35秒35(±0.0)の大会新を出して1位。400mも1分23秒09の1位で見事に3種目制覇を果たした。

長崎さんは「年齢が71歳でW70クラスでは若い方。だからレースでは有利に勝たせてもらったもの。ラッキーだったんです」と控えめに話す。レースについては「100mはタイムがもう一つでした。でも、200mは大会新が出て。400mは2～3年に1回ほどしか走らないし、今回は練習なしで。まあまあでしたか」。

長崎さんの今年1年は今回のアジアマスターズの三冠をはじめ、3月の世

第22回アジアマスターズ 日本選手メダリスト一覧(リレー)

クラス	種目	記録	順位	1走	2走	3走	4走
M35	4×100mR	42秒97	優勝	大石 唯	松本雄二郎	横谷 政一	小田 虎賢
M45	4×100mR	45秒83	優勝	矢澤 恵一	古賀 功亮	山田 真一	栗本 直規
M50	4×100mR	44秒42	優勝	寺下 健治	朝原 宣治	譜久里 武	赤堀 弘晃 世界新
W35	4×100mR	58秒83	優勝	金丸 速香	伴 佳恵	高畑 志野	渡辺 彩香 アジア新
M35	4×400mR	3分30秒26	優勝	松本雄二郎	大石 唯	小田 虎賢	横谷 政一
M45	4×400mR	3分44秒82	優勝	栗本 直規	山田 真一	大竹 順平	赤堀 弘晃
M50	4×400mR	3分53秒96	優勝	池崎 靖夫	保坂 政志	水野 広道	古賀 功亮